

第1章 概 要

1. 教材の構成と学習方法

教材は、学習者用としての「テキスト」（パソコンによる財務会計－入門編－）と「CD-ROM」（財務会計学習用ソフトウェアが収録されたもの）および「指導者用操作マニュアル」とにより構成されています。

学習方法は、テキストおよびCD-ROMとパソコンによるマルチメディア技術を活かしたシステムにより、音声による解説を聴きながら、そして実際に操作し、入力しながらインタラクティブに、到達目標の完全習得をねらいとして学習を進めます。

2. 財務会計学習用ソフトウェア

財務会計学習用ソフトウェアは、はじめての方がパソコンを用いて財務会計ソフトの基本操作ができるようになることを目的とした学習用ソフトウェアで、「パソコンによる財務会計学習用プログラム」と「学習用財務会計」とにより構成されています。

「パソコン財務会計学習用プログラム」は、テキスト「パソコンによる財務会計－入門編－」と組み合わせて使用します。

「学習用財務会計」は、さらに学習を発展させるための財務会計学習用ソフトウェアです。「パソコン財務会計学習用プログラム」とテキスト「パソコンによる財務会計－入門編－」とにより、財務会計ソフトの基本操作を習得したのち、更に学習時間にも余裕があり実務的な内容の課題例として「パソコンによる財務会計－課題編－」を学習したい方のために用意しました。音声による解説は勿論のこと、学習者用としての課題やテキストもありません。

学習では、財務会計についての業務経験または知識、パソコンの基本操作や入力方法は既に習得した後の訓練段階での使用を想定しております。したがって本ソフトでは、財務会計ソフトの導入から日常処理、管理資料の作成の基本操作の理解に主眼が置かれるため、その学習を阻害するような機能の訓練は極力排除した内容となっています。

3. パソコン財務会計学習用プログラムのフローチャート

パソコン財務会計学習用プログラムのフローチャートは、次のとおりです。

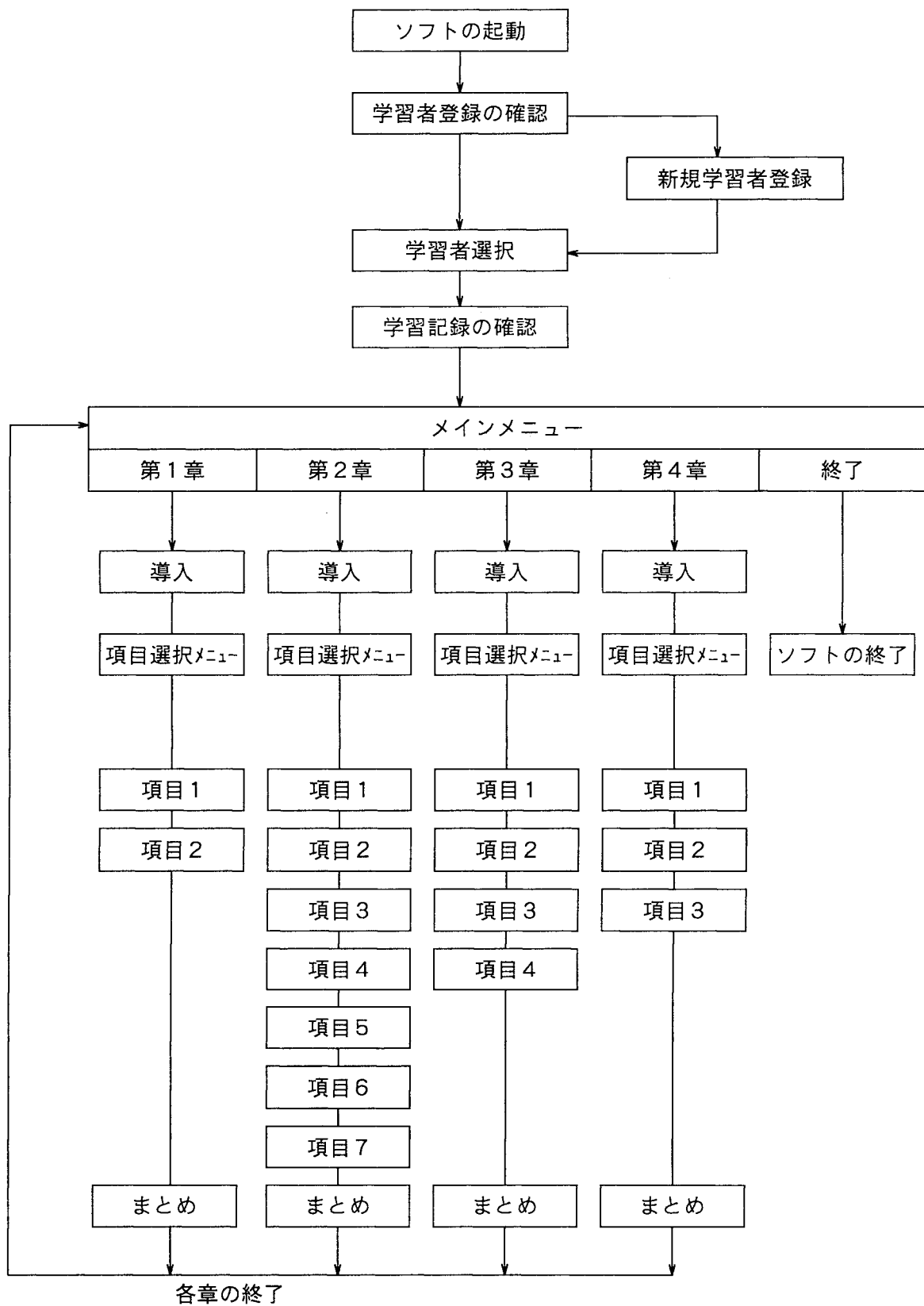


図1-1 「パソコン財務会計学習用プログラム」のフローチャート

4. パソコン財務会計学習用プログラムの基本的な展開

パソコン財務会計学習用プログラムの展開は、スキップ技法とブランチング技法を基本としています。また、誤答に対する処理は、クローズ型を原則としました。学習者がマイペースで正解に到達するまで繰り返し解答させます。

5. 演習課題数

本格的な技能の定着のためには、繰り返し学習することが重要です。しかし同じ形態での学習を繰り返すことは、学習対象者が高齢である場合は、苦痛になることも考慮しなければなりません。また学習時間もかかることから学習意欲がわかなくなるのが実情です。

このような形態の繰り返し学習を効率的に行えるように、例えば貸借対照表や損益計算書をはじめ各種管理資料の作成機能の学習は、あらかじめ入力されているデータにもとづいて学習ができるようにし、入力件数が多くならないように配慮しました。

6. 学習時間と視力障害に対する配慮

学習時間は、学習モードが学習者制御方式であることから学習対象者により異なりますが、「パソコンによる財務会計－入門編－」の場合は、90分から120分です。

学習対象者が高齢者である場合は、一般的に学習意欲が高く連続学習時間も長くなる可能性があります。視力障害に配慮し強制的に休憩をとってください。